

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年12月1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871100228		
法人名	有限会社 豊玉		
事業所名	グループホーム さくらんぼ	ユニット名	1号館 おもいで館
所在地	〒303-0041 茨城県常総市豊岡町乙3587		
自己評価作成日	平成28年8月5日	評価結果 市町村受理日	平成28年12月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0871100228-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年9月14日	評価機関 決 済 日	平成28年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「安全・安心・穏やかに」の理念に基づき、本人にはここに来てよかった。ご家族様には、ここに預けてよかった。と思っただけの事を願って職員一同頑張っております。 認知症になられた方が穏やかに過ごせる時間は誰もが望んでいることです。 特に新たに入所された方にはなるべく早い時期に笑顔で穏やかに皆と安らいだ時間を過ごしていただけるよう、「接遇」を中心とした「言葉遣え」「カンファレンス」等を重ね努力しています。 また新入職員に対しては「エルダー・メンター」制度にもとづき、研修を行っています。 「さくらんぼ」がこの地域にとって必要とされることを目標に日々努力しているところであります。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は交通量が多い道路に面していることもあり、職員は利用者の安全を第一に考えるとともに、利用者が住み慣れた地域で地域の一員として暮らし続けられるよう、笑顔と思いやりを持って日々支援に努めている。 代表者は毎日利用者家族の家庭訪問を行い、家族等の思いを把握することに努めている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「感謝・信頼・奉仕」の指針を共有し、「安心・安全・穏やか」に過ごせる時間の提供を全職員が心掛けている。	事業所独自の理念を作成して事務室に掲示するとともに、朝礼時や2ヶ月に1回の職員会議などで確認して共有を図るとともに、住み慣れた地域の一員として暮らし続けられるよう支援しているとのことだが、理念にその思いを盛り込むまでには至っておらず、わかりづらいものとなっている。	前回の外部評価でも目標達成計画にあがっていた理念について、地域密着型サービスの意義を踏まえたわかり易いものとなるよう、職員で話し合ってみ直すことを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	絵手紙の会の方が絵手紙を持ってきてくださったり、近隣の方が自作の絵画を持って来てくださったりして、廊下に飾らせていただいて、交流を図ったりなどしている。	利用者と職員が散歩をしていると、近隣の会社員や住民と挨拶を交しているほか、近隣住民からは時折季節の花や野菜のお裾分けを貰っている。 地域のボランティアや代表者の知人が制作した、趣味の絵手紙や絵画を事業所の居間兼食堂、廊下に展示するとともに、作品を交換に来所した際に、利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「脳トレ」の講座を開いていて近隣の方が参加して下さっている。継続して参加して下さっている方が多く、効果があると喜ばれている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には市町村担当者、市のOBの方、民生委員の方など様々な情報をお持ちの方が来てくださっているので、貴重な意見をいただき、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、地域住民、代表者、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 事業所からは行事や利用者の状況報告のほか、事業所の取り組みなどを報告し、委員からは率直な意見を取り入れて、情報交換をしている。 委員から「復興支援コンサート」があるとの情報をもらい、利用者を連れて聞きに行くことができた。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	家族が支援困難なケースなどを、市町村担当者に相談、助言や意見をもらうなど連携に努めている。	市担当者が毎回運営推進会議に出席しているほか、経営者や管理者は、生活保護受給者の公費に関する相談や要介護更新申請などで、電話だけでなく直接市窓口に出向いて情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行っている。安全が保障できない場合は、ご家族と相談している。	身体拘束排除に関するマニュアルを作成し、法人全体で行う運営推進委員会会議で確認するなど、全職員で身体拘束をしないケアに努めている。 事業所は道路に面しているため、安全面を考慮して玄関は日中も施錠しているが、家族等から書面にて同意を得るまでには至っていない。 外出を希望する利用者には職員が同行し、自室の位牌に供える花を一緒に取りに行くことなどもある。	玄関の施錠に関して、家族等から書面にて同意を得ることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送りや職員の運営推進委員会会議で定期的に説明、話し合いを行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間の運営推進委員会会議で話し合う機会を作っていく予定。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱こころの声を設置して、意見や苦情を出しやすいようにしている。苦情は、申し送りや運営推進委員会会議で話し合っている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに、玄関に意見箱「心の声」を設置している。 代表者は毎日利用者家族の家庭訪問をしており、意見等を直接聴くように努めている。 管理者と職員は利用者からは日々の会話から、家族等からは面会時や運営推進会議時に意見や要望を聴くよう努めているほか、家族アンケートを実施して意見等を汲みあげるよう努めている。 家族等の意見を受けて、外出や外泊の機会を増やせるよう検討し、少しずつ実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進委員会会議で話し合っている。普段でも気付いたこと、気になることなどあればいつでも管理者に声をかけてもらっている。代表者は個々の職員と気軽に雑談できる場を設けている（モンカフェ）。	事業所は「エルダー・メンター制度」を導入して職員を育成しているほか、職員会議などで職員から意見や提案を聞く機会を設けている。 職員の希望で、個別にお茶を飲みながら話を聞くなど、コミュニケーションを図り、何でも言える関係づくりに努めている。 職員の意見を反映して、浴室の椅子やガス台が壊れて交換したり、利用者の食事形態をお粥からご飯に変更するなどした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が楽に働けることを常に考えて、理解して、職場環境・条件の整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。新入職員にはベテラン職員が同勤務等で指導を行っている。資格取得のため 社内で勉強会を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	サービス事業者連絡会に参加している。営業活動や研修会等でネットワークづくりを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期期間の一週間は、その入居者を良く知るために、専用のケース記録にして、細かく記入して関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族と話し合いを十分に行っている。安心して生活してもらえるよう 利用者本人などの状況をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。本人の状況、家族からの話、その他の情報などすべての状況を検討し、対応している。家族が支援できる外泊や外出などもできるよう話し合っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている。常に様子観察を欠かさず、今何をしたいか等を把握し、その方に合った役割なども準備している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている。家族との関わりを支援し、家族が支援できる外出や外泊などもできるように話し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。友人の面会がいつでもできるよう 玄関を開放している。	入居時の聴き取りや利用者との日々の会話などから、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努め、把握した内容は申し送りノートに記載して朝礼時に周知している。 利用者の友人や親戚が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるよう配慮しているほか、馴染みの理美容室や自宅への外出・外泊、外食、墓参りなどに、家族等の協力を得ながら支援し、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。利用者同士のトラブルは職員が自然に入り支援している。席の配慮など。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。家族の要望を聞いて、出来ることは支援可能か検討して実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。職員みんなで連携して、本人の様子観察を行い、申し送りや運営推進委員会で検討している。	管理者と職員は、利用者の表情や仕草、態度のほか、申し送りノートや個人記録から一人ひとりの思いや希望の把握に努めるとともに、職員会議やユニット会議、申し送りノートなどで共有している。 意思の表出が困難な利用者の場合は、家族等の来訪時に話を聴いたり、表情や仕草から思いや意向の把握に努め、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅の介護支援専門員に情報の提供をお願いしたり、毎月の利用料金支払い時などにご家族とお話して把握に努めている。知り得た情報はケース記録、日誌に反映して職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員みんなで連携して本人の様子観察を行い、知り得た情報はケース記録、日誌に記入して現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、その他関係者と話し合い、意見をまとめてケアプランに反映している。介護計画は状況が変わった利用者様を優先して、職員、管理者で協力して作成している。	介護計画は利用者や家族等の意向や要望を取り入れながら、管理者と計画作成担当者、職員で話し合って作成し、面会時や請求書送付時に家族等から同意を得ている。 モニタリングと短期目標は6ヶ月毎、長期目標は1年毎に設定し、基本的に1年毎に計画の見直しをしている。 利用者の状態等に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に随時見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日誌、個別記録に記入し、共通認識し、ケアプランの見直しや実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。利用者の体調の変化時など 家族と相談して、ホーム側でできる支援を行っている。（往診など）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の畑や花畑、隣のデイサービス、外泊などを使って楽しめる支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に電話で様子をお伝えするなどしながら支援している。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能かことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明し、確認を得ている。 かかりつけ医への受診は家族等の付き添いを基本とし、家族等が付き添えない場合には職員が付き添っている。 月1回協力医療機関の医師による訪問診療を支援し、受診結果は家族等には電話や来訪時に報告するとともに、個人記録や申し送りノートに記載して職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が不在なためできていない。かかりつけ医の看護師等に相談するなどしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。かかりつけ医に折々様子を伝え、関係づくりを行っている。	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時 説明している。重度化など体調の変化があったときには、その都度家族等と話し合い、相談して支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合の確認書」にて、事業所では看取り介護は行わない方針であることを家族等に説明し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の応急手当の講習をうけている。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	申し送りの後などに避難訓練を行って、全職員が身につけている。近隣の消防署などと協力体制を築いている。	消防署立ち会いのもと、夜間想定を含む避難訓練を年2回実施しているが、地域住民の参加を得るまでには至っておらず、反省会を行っているが、記録には残していない。 災害に備えて米や食料品、懐中電灯、おむつ類などを備蓄し、担当職員が管理している。	前回の外部評価でも目標達成計画にあがっていた、避難訓練に地域住民の参加を促す取り組みと、訓練後に行う反省会の内容を記録に残すことを期待する。 備蓄品は品名や数量を記載した一覧表を作成して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っている。人生の先輩として敬語を基本として対応している。	職員は利用者の尊厳やプライバシーを大切にするとともに、利用者の羞恥心や自尊心に配慮したケアに取り組んでいる。 個人情報の取り扱いについては、契約時に家族等から書面にて同意を得ているとともに、書類は施錠ができる書棚に保管し、取り扱いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。利用者様の表情や言葉を注意深く受け止めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。着替えをご自分で好きなものを選んでいただいたりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。一人ひとりの力に合ったお手伝い等をしていただいている。食事はとても楽しみな様子が伺える。	献立は利用者の好物や苦手な物を踏まえて職員が作成し、苦手な食材の時には代替え食を用意したり、ベランダのプランターで栽培した野菜を加えるなど、食事が楽しめるように支援している。 正月のおせちや誕生会、敬老会、父の日、母の日には赤飯や寿司などの行事食を提供しているほか、家族等が同行して外食に出かける利用者もいる。 利用者はできる範囲で野菜の皮むきやテーブル拭き、下膳などを一緒に行っており、職員は利用者と同じテーブルに着いて食事介助をしたり、楽しく話をしながら同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。一人ひとりの状態を常に確認して支援している。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。その方に合った対応をしている。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	行っている。服薬介助も含め、一人ひとりの状態に応じた声掛け誘導を行っている。	職員は排泄チェック表や個人記録を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の仕草やサインから察知してさりげなく声かけ誘導し、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。一人ひとりの体調を確認し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に応じた入浴支援を目指しているが、曜日や時間の選択は困難な場合もある。	入浴は週2回午前中を基本としているが、利用者の希望によってはいつでも利用可能となっている。 入浴を拒む利用者には強要はせず、職員や時間帯を変えたり、清拭や足浴などで促している。 柚子湯などで季節感を取り入れ、入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。一人ひとり対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の医師、看護師と連携して、薬の内容等確認、理解し、全職員が申し送りなどを通じて共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。一人ひとりの力に合った役割を持っていただくよう支援している。 一人ひとりが楽しい時間が過ごせるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援に努めている。出かけられる支援は計画するが、利用者様の体調、状態によりなかなか実施できない。	天気の良い日には、利用者と職員で事業所周辺を散歩し、日頃から近隣住民と挨拶を交している。 家族等の協力が得られる利用者は、外出や買い物等に出かけているが、事業所では年間行事計画を作成したり、利用者の思いにそった外出支援を行うまでには至っていない。	四季折々に合わせた外出や地域住民との交流を図った外出ができるよう、代表者や管理者、職員で話し合い、年間行事計画を作成したり、家族等の協力を得るなど工夫をして実行することを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。希望に沿って電話する介助をしたり、はがきを用意したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事のちょっとした物を飾ったりして、落ち着いて過ごせるよう工夫している。	玄関は車いすでも安心できる広さがあり、椅子とテーブルを配置して、休んだり面会時にゆっくりできるスペースとなっている。 廊下の壁面には近隣住民が季節に応じた絵画や写真、押し花など趣味の作品を掲示しているほか、居間兼食堂にはテレビやソファを配置し、思い思いに寛ぐことができる。 浴室にはシャワーチェアや滑り止めマット、トイレには手摺を設置するなど、利用者が安全で使い易い配慮をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置いたり、テーブルといすも何か所かに離れておいてあるなど、皆様それぞれに過ごせるよう工夫している。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。皆様なじみのものをおいている。	居室にはカーテンやエアコン、整理箆笥が備え付けられており、ベッドや布団はレンタル可能となっている。 管理者は入居時に使い慣れた物品を持参して貰えるよう説明している。 利用者は家族等と相談しながら使い慣れた寝具類や衣装ケース、目覚まし時計、テレビ、家族の写真、位牌、手作り作品、ドレッサー、冷蔵庫などを持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫している。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。トイレの場所に矢印をつけたり、居室に目印をつけたりしている。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームさくらんぼ

作成日 平成28年12月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念について	地域密着型サービスの意義を踏まえたわかりやすいものにする。	職員で話し合い協議する。	即急
2	6	玄関の施錠について	施錠なし	施錠なしで、もしもの時を想定して協議する。	即急
3	35	避難訓練について 備蓄品について	地域住民の参加 災害に備えて備蓄	地域住民の参加を促す費用・備蓄の場所等を協議する。	開催に向けて随時 早い時期に実施できるよう検討
4	49	外出や地域住民との交流	外出や地域住民との交流	外出できる体制を整える。 ボランティアの方々の協力。	なるべく早い時期に
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。